

“自ら学ぶ” 緑中生

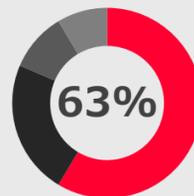
(I) 深め合い 繋がり合い
improve ourselves through competition.



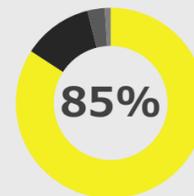
深い学び***

知識・技能を活用する
自分の考えを形成する
新たなものを創り上げる

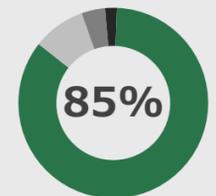
情報活用能力の育成／ICTの活用



複数の文書や資料から
情報を読み取って
自分の考えを書くこと



Classroomの
課題等に
取り組むこと



タブレットを使って
協働作業を
すること

緑中の 主・対・深

※数字は11月授業アンケート生徒回答による

学習内容の確実な定着
必要に応じた重点的な指導
指導方法等の工夫
多様な他者との協働
1人1人の可能性を引き出す

対話的な学び**



協働して課題解決する
互いの考えを比較する
思考を表現に置き換える

78%

タブレットを使って
考えを交流することが
得意である

84.7%

興味や意欲をもって
やりたいことを
深められる授業が
たくさんある

主体的な学び*



興味や関心を高める
見通しを持つ
粘り強く取り組む
振り返って次へつなげる

■ 主体的 ■ 対話的 ■ 深い学び

*「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びのことである。
子どもが興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

**「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学びである。
身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事を多面的にとらえ深い理解につなげていくためには、多様な表現を通して、教職員と子どもや、子ども同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが重要である。

***「深い学び」とは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びである。
見方・考え方は、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である。

